

2025 年度「教師のためのことばセミナー」のご案内

一般財団法人 ラボ国際交流センター
東京言語研究所

東京言語研究所では 2019 年まで9回にわたり、「教師のためのことばワークショップ」を開催し、「ことばへの気づき」の概念を基盤としたワークショップを行ってきました。そして、2021 年からは「教師のためのことばセミナー」として、教師を主たる対象として理論言語学の考え方や方法を講義とディスカッションを交えた形式で解説する企画を始めました。今年度は初心に戻り、理論言語学／生成文法、英文法、第一言語獲得、第二言語獲得、より広い視野から眺めた英語教育の5つのトピックを取り上げることにしました。また、このワークショップ／セミナー初登壇の気鋭の研究者に講師をお願いしたことも今回の特徴です。小・中・高・大の先生以外にも、教員志望者、社会人など、いろいろな背景をもつ方々にむけ、わかりやすく解説します。

時間： 各日 10：00AM～12：00PM（1月25日のみ終了時間 12：40PM）

講義形態： ZOOM によるオンライン講義

受講料： 12,500 円（消費税込）／全5回 ※事前振込制

※1日単位の申込受付は行っておりません

日程・講義テーマ・担当講師（全体コーディネーター大津由紀雄）：

①11月16日（日曜日）10：00AM～12：00PM

英文法の理屈 可算不可算名詞を例に（鈴木猛・東京学芸大学教授）

②11月30日（日曜日）10：00AM～12：00PM

ことばのしくみをどう考える？どう学ぶ？——生成文法からのヒント

（小町将之・静岡大学教授）

③12月14日（日曜日）10：00AM～12：00PM

子どもは出来事をどう言語化するか 一複合動詞と句動詞の並行発達と授業への応用—

（木戸康人・九州国際大学准教授）

④1月12日（祝日）10：00AM～12：00PM

第二言語学習者の誤りから見える生得的言語知識（大滝宏一・中京大学准教授）

⑤1月25日（日曜日）10：00AM～12：40PM 拡大版

・中等教育における「やり取り（指導）」の文法を考える（亘理陽一・中京大学教授）

・大津由紀雄（慶應義塾大学名誉教授）との対談

申込み受付期間： 10月10日（金）10：00AM～11月10日（月）10：00AM

受付期間内に [こちら](#) もしくは QR コードよりお申込みください。

受講料振込締切： 11月10日（月）



11月16日(日) 10:00AM~12:00PM

英文法の理屈 可算不可算名詞を例に (鈴木猛・東京学芸大学教授)

英語の名詞句には、学校教育における学習英文法で深入りしない部分、まだまだよくわからない疑問点が多々ある。本講義では名詞の可算性について(ほんの少しではあるけれど)深掘りしたい。どんな名詞が可算名詞(数えられる)で、どのような名詞が不可算(数えられない)なのか?何か英文法なりの理屈があるのだろうか?名詞の意味を話者がどう捉えるかを中心に据えた分析をいくつか紹介し、理屈があるという方向で考えてみたい。

鈴木猛 講師プロフィール

東京学芸大学教授。Ph.D. 生成文法理論を中心に、文法と意味の接点についてさまざまな枠組み(語彙意味論、認知言語学、構文文法)の考え方も最大限に活かしつつ、文法獲得過程も大人の文法に多大な影響をもたらすことを取り込んだ動的な文法モデルに基づき、英文法の理屈を捉えようとしている。

11月30日(日) 10:00AM~12:00PM

ことばのしくみをどう考える?どう学ぶ?——生成文法からのヒント

(小町将之・静岡大学教授)

生成文法は、理論的なアプローチで人の言語能力の仕組みを探究してきました。その数十年にわたる研究成果を踏まえて、本講義では英語や日本語の文法現象を題材に、語と語がどのように結びつき解釈されるのかを紹介します。そこから、言語の共通性と多様性をどう理解できるのかについて考え、教育や学習の課題に対してどんなヒントが得られるかを探ります。

小町将之 講師プロフィール

静岡大学人文社会科学部教授。博士(教育学)。専門は理論言語学で、生成文法研究の一環として、英語や日本語などの文法現象を研究している。また、大学入試センター教科科目第一委員会や教科用図書検定調査審議会専門委員を務めた経験から、教育のあり方にも関心を寄せてきた。著書に『極小主義における説明理論の挑戦』(2024年、共編著)など。

12月14日(日) 10:00AM~12:00PM

子どもは出来事をどう言語化するか—複合動詞と句動詞の並行発達と授業への応用—

(木戸康人・九州国際大学准教授)

日本語と英語は表面だけを見ると大きく異なる。しかし動詞概念の獲得に焦点を当てると、両言語の子どもに共通する発達の道筋が見えてくる。本講演では、日本語の複合動詞と英語の句動詞を取り上げ、子どもが小さな意味要素を組み合わせる複雑述語を作る過程を、生成文法の視点から平易に解説する。学校教育への応用として、基本要素から段階的に組み立てる指導案を示し、理論言語学の知見を小・中・高・大の授業づくりへ具体的に接続する。

木戸康人 講師プロフィール

九州国際大学 准教授。専門は英語学、形態論、語彙意味論、第一言語獲得。生成文法の観点から理論言語学の実証研究を行い、コーパスと発達データに統計的手法を組み合わせ、複合動詞・句動詞・名詞複合の獲得過程を比較している。主要業績: Kido Y. 2024. "Parallelisms between Verb-Particle Constructions in English and Verb-Verb Compounds in Japanese: Evidence from Acquisition Research." *Languages*. / Kido Y. 2020. Acquisition of V-V Compounds in Child English and Japanese: An Empirical Study Using CHILDES." 『統語構造と言語の多角的研究』 開拓社。

1月12日（祝）10：00AM～12：00PM

第二言語学習者の誤りから見える生得的言語知識（大滝宏一・中京大学国際学部准教授）

第二言語獲得は母語獲得と多くの点で異なるため、第二言語獲得は母語獲得とは全く異なる認知的メカニズムのもとで行われると考えがちですが、本当にそうなのでしょうか。今回の講義では、第二言語学習者の間で観察される誤りをいくつか紹介するとともに、その裏側には実はヒトという種に生得的に備わっている言語知識が関わっているのではないかという主張を考えてみたいと思います。また、第二言語獲得研究がどのように英語教育と関わるのか（もしくは関わらないのか）ということに関しても考えてみたいと思います。

大滝宏一 講師プロフィール

中京大学国際学部准教授。専門は、生成文法に基づく母語・第二言語獲得研究、及び比較統語論。近年は、第二言語学習者が創り出す文法的誤り（項の脱落や *be* 動詞の過剰生成）と生得的な言語知識との関連について研究を行うとともに、VOS という語順を持つカクチケル語（グアテマラ共和国の一部で話されているマヤ系言語）や、VSO という語順を持つトンガ語（トンガ王国で話されているオーストロネシア系言語）の統語的特徴や母語獲得についても、現地調査・実験を行いながら研究を進めている。

1月25日（日）10：00AM～12：40PM

中等教育における「やり取り（指導）」の文法を考える（巨理陽一・中京大学教授）

現行学習指導要領の改訂時に「話すこと」が「やり取り」と「発表」の2領域に分けられましたが、「やり取り」の指導においていったい何を、どうすればいいのかということは十分に整理されないまま現在に至っているように思います。本講義では、「発表」の指導と変わらない授業や「書き言葉の文法」を前提にした授業を脱却し、言語的コミュニケーション全体から「やり取り」の固有性を捉えた上で、そのおもしろさ、豊かさ、怖さを味わえる授業のヒントを探ります。

巨理陽一 講師プロフィール

中京大学国際学部教授。言語学的成果にもとづいて教育内容・教材を構成し、実際の授業を通じて学習者が「わかる」・「できる」ようになる過程を明らかにすることを究極の関心に、みんなが知的喜びを共有でき、生徒も教師も楽しく学べる授業・カリキュラムのあり方を追究している。著書に『どうする、小学校英語？ ---狂騒曲のあとさき』（慶應義塾大学出版会、2021年、大津由紀雄との共編）、『英語教育のエビデンス』（研究社、2021年、共著）など。